

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 488

事業名	いずみ会補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	健康課		款	衛生費・4款
電話	0799 - 44 - 3004			項	保健衛生費・1項
事業分類	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	健康づくり推進事業費・3目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命_〔健康〕			
	施策目標	健康増進や予防などに関する意識を高め、信頼性の高い医療・救急医療が受けられる仕組みを整える			

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳) 南あわじ市いずみ会(乳幼児から高齢者まで南あわじ市全市民を対象とする。)				構成人数(人) 461
	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	食生活改善グループの相互の連絡、親睦をはかり各地区における食生活改善の実践活動を組織的に推進し、南あわじ市民の健康増進に寄与することを目的とする。				
	実施内容	(主な事業、活動内容等) 保健センター委託事業(食育講座赤ちゃん栄養サロン、住民食生活改善教室等)、県委託事業(ヘルスサポーター育成事業、食生活診断等)食の健康運動リーダー活動、子育て学習センターに出前講座、小学校での料理教室、男の料理教室、社会福祉協議会の配食サービスボランティア活動、各種イベントでの食育普及活動など地域住民を対象に多彩な食育活動を展開している。				
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など) 南あわじ市いずみ会は、平成19年4月現在51グループ、461名の会員で成り立っている。旧町単位の4支部で構成され、市事務局を市栄養士が担当している。 また、現在の南あわじ市いずみ会会長は、昨年度、兵庫県いずみ会会長に就任され、兵庫県功労者表彰を受賞しており、今後の活動が期待されている。				
	補助金算出根拠	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	<input checked="" type="checkbox"/> 市単位 (健康課)	<input type="checkbox"/> 旧町単位 () <input type="checkbox"/> 旧村単位 ()
	補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
	合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 地域に密着した活動を行う為、支部組織を残す。旧町保健センターを支部組織の拠点とする。				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	1,000	1,000	992	1,146
	いずみ会補助金	1,000	1,000	992	1,146
	事務局事務費(市が事務局の場合)				
	財 源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	1,000	1,000	992	1,146
	人件費(正規職員)[B] (千円)	5,158	2,691	5,057	5,057
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)	84	90	84	84
	事業量2(事業に要した人数)	2	1	2	2
	年間経費([A]+[B])	6,158	3,691	6,049	6,203
「構成人数」一人当り経費 (千円)	13.4	8.0	13.1	13.5	
受益者人数(53,374)1人当り経費(千円)	0.1	0.1	0.1	0.1	
経費に関する 補足説明	直接事務費は、栄養士雇い上げ料、委託料を計上する。				

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 知識、技術の向上、組織の結束力の強化の為、研修会等を実施するのに、諸費用必要になる。また、いずみ会による食生活改善推進活動が縮小されることによって、将来的に医療費があがることにつながる。 (19年度参考) ・淡路市 助成金 1,153,000円 ・洲本市 助成金 100,000円、委託料650,000円、健康福祉まつり300,000円 ・南あわじ市 補助金 390,000円、委託料606,000円	自己評価 (5点評価)
		4
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 今、求められている食育の推進にいずみ会のニーズは、高くなっている。コミュニティガーデン(家庭菜園)等自主活動も増加しており、市職員に代わって市民のために活動してくれている。	自己評価 (5点評価)
		4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 健診の集約化により委託料の減少(平成18年度より200,000円減)、保健センターの職員の集約化による支部組織の機能の低下等活動に支障をきたす部分もあるなか、ボランティア活動を自主的に行うには、研修費、通信費がより必要になってくる。	評価グラフ
		<p>費用対効果 4 必要性 4</p>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input checked="" type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 交付方法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
今後の方向性とその理由	活動がより明確になるよう洲本市のように補助金を減らし、委託料を増やす。また、保健センターという拠点に職員がいなくなったこともあり、支部組織を解体し、会計を市1つにする時期がきている。	平成20年度に支部組織を解体し、グループ活動を実施していくことになるが、このことによりどれだけグループ活動を活発に行えるかは、市職員の関わる度合い、会員のマンパワーによるところであり、現時点では、計り知れない。今後の動向により再考することになるが、兵庫県会長として、あと6～8年活動予定の会長のお膝元として組織を弱体化させる訳にはいかず、関わり方等検討課題である。
(現状維持以外の改善方法)	委託事業である地域住民対象に実施されている住民食生活改善教室の回数を増やす(現在14回)。 また、現在年会費を1,200円徴収し、400円を市会計、800円を支部会計に納めているが、市に1,200円おいておくようにすることで、効率が上がると思われる。	
改善によって期待される効果	支部組織をなくし、グループ活動にすることによって、組織機能の低下は否めないが、旧町意識が強い支部組織をなくすことにより、市組織の一体化が望まれる。また、住民対象にグループ活動を実施するには、委託料の方が、双方にとって明確であると思われる。	
(現状維持の場合も記入)	仮に 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) いずみ会に求められる食育の活動が多い中、会員の高齢化(平成19年4月現在64.5歳)、婦人会組織の低下により、新会員の確保が困難で、組織の弱体化が心配されている。補助金が廃止になれば、活動にあたり、より一部の役員だけに肉体的だけでなく、金銭的にも負担がかかり、いずれ衰退すると思われる。 プラス面として考えられることは、委託料に変換するという前提のもとに、事業が明確化するとと思われる。	